

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-245840

(43)公開日 平成6年(1994)9月6日

(51)IntCl <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 C 4/28	Z	8313-3K		
A 4 7 B 3/12	A	2113-3K		
A 4 7 C 5/10	B	8313-3K		

審査請求 未請求 請求項の数 1, O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-33205

(22)出願日 平成5年(1993)2月23日

(71)出願人 592035844

株式会社近藤金属

新潟県南蒲原郡栄町大字今井287番地の1

(72)発明者 近藤 荒樹

新潟県南蒲原郡栄町大字今井287番地の1

株式会社近藤金属内

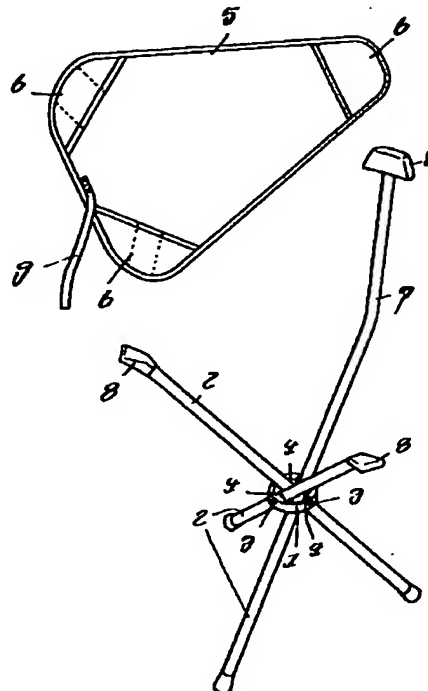
(74)代理人 弁理士 吉井 昭栄 (外2名)

(54)【発明の名称】 脚装置

(57)【要約】

【目的】 簡易な構成にして折り畳み操作が極めて容易である脚装置を提供すること。

【構成】 閉塞環体1内に三本の脚棒体2を上下貫通状態に配設し、閉塞環体1の内周部に内周に沿って所定間隔を置いて各脚棒体2を夫々枢着して、各脚棒体2を夫々の枢着部3を回動軸として傾動自在に構成し、互いに閉塞環体1内で交差するように所定角度傾斜した各脚棒体2を支承係止し得る支承縁部4を閉塞環体1に形成した脚装置。



BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 閉塞環体内に少なくとも三本以上の脚棒体を上下貫通状態に配設し、閉塞環体の内周部に内周に沿って所定間隔を置いて各脚棒体を夫々枢着して、各脚棒体を夫々の枢着部を回動軸として傾動自在に構成し、互いに閉塞環体内で交差するように所定角度傾斜した各脚棒体を支承係止し得る支承縁部を閉塞環体に形成したことを特徴とする脚装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、例えば折り畳み椅子や折り畳みテーブルなどに用いる脚装置に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】従来様々な脚装置が提案されているが、本発明は簡易な構成にして折り畳み操作が極めて容易である脚装置を提供することが技術的課題である。

## 【0003】

【課題を解決するための手段】添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【0004】閉塞環体1内に少なくとも三本以上の脚棒体2を上下貫通状態に配設し、閉塞環体1の内周部に内周に沿って所定間隔を置いて各脚棒体2を夫々枢着して、各脚棒体2を夫々の枢着部3を回動軸として傾動自在に構成し、互いに閉塞環体1内で交差するように所定角度傾斜した各脚棒体2を支承係止し得る支承縁部4を閉塞環体1に形成したことを特徴とする脚装置に係るものである。

## 【0005】

【作用】収納時は、閉塞環体1内に上下貫通状態に配した各脚棒体2を集束状態とし、使用時は、各脚棒体2を夫々の枢着部3を回動軸として傾動し、互いに閉塞環体1内で交差させ、各脚棒体2を閉塞環体1に設けられた支承縁部4に支承係止すると、所定角度傾斜した状態が保持され、脚棒体2の下部に互いに異なる向きに開いた脚が形成される。

## 【0006】

【実施例】本実施例は、折り畳み椅子に本発明を適用したものである。

【0007】閉塞環体1は、円形リング状に形成している。

【0008】脚棒体2はパイプで形成している。

【0009】本実施例では、この閉塞環体1内に三本の脚棒体2を挿通配設し、各脚棒体2を閉塞環体1の内周部に軸着し、この軸着した枢着部3を閉塞環体1の内周に沿って夫々一定間隔に設け、脚棒体2を120度置きに配している。

【0010】また、各脚棒体2を夫々傾斜させた際、脚棒体2を当接支承する支承縁部4を閉塞環体1の内周上

縁部に凹設形成すると共に、内周下縁にもテーパ面を形成して設けている。

【0011】従って、本実施例では、各脚棒体2を枢着部3を回転軸として傾動し、各脚棒体2を支承縁部4に当接支承すると、各脚棒体2は閉塞環体1内で交差した状態でその下部は三方に開き、閉塞環体1の支承縁部4を交差支承部とした三脚タイプの脚が構成される。

【0012】図1～図5に示す第一実施例では、各脚棒体2を傾斜状態に配した際の一本の脚棒体2の上部を鉛直上方へ折曲して背もたれ支承杆7とし、各脚棒体2の上端の挿入係止部8を座用シート5の角部に設けた挿入部6に挿入して座用シート5を張設し、背もたれ付の折り畳み椅子を構成する。

【0013】図6～図8に示す第二実施例では、三方に広げた各脚棒体2の上端に座用シート5を同様にして水平張設し、背もたれのない折り畳み椅子を構成する。

【0014】収納時は、各脚棒体2を持ち上げながら開いていた脚棒体2を束ね、座用シート5をこの束ねた脚棒体2上部に巻き付け、座用シート5に付設した係止バンド9で巻き付け係止し、収納並びに持ち運びが容易となるようにしている。

【0015】尚、本発明は、本実施例に限らず、例えば閉塞環体1の形状、構成などは適宜設計し得るもので、支承強度を高めるため本実施例のように凹設して支承縁部4を形成したり、テーパ面に支承縁部4を形成しても良いし、単なる当接角縁でも良く、当接角縁に緩衝用パッドなどを介在せしめても良い。

【0016】また、支承縁部4に当接する部分の脚棒体2に補強リングを被嵌して脚棒体2の支承強度を高め、強度の弱い脚棒体2を採用し得るように工夫しても良い。

## 【0017】

【発明の効果】本発明は上述のように構成したから、簡易な構成にして折り畳み操作が極めて容易な脚装置となる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】第一実施例の収納時の斜視図である。

【図2】第一実施例の使用時の分解斜視図である。

【図3】第一実施例の使用状態の斜視図である。

【図4】第一実施例の使用時の要部の正断面図である。

【図5】第一実施例の使用時の要部の平衡断面図である。

【図6】第二実施例の収納時の斜視図である。

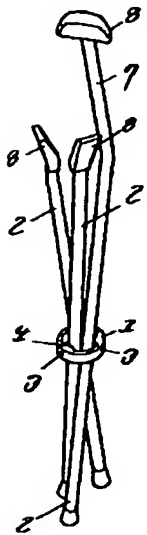
【図7】第二実施例の使用時の分解斜視図である。

【図8】第二実施例の使用状態の斜視図である。

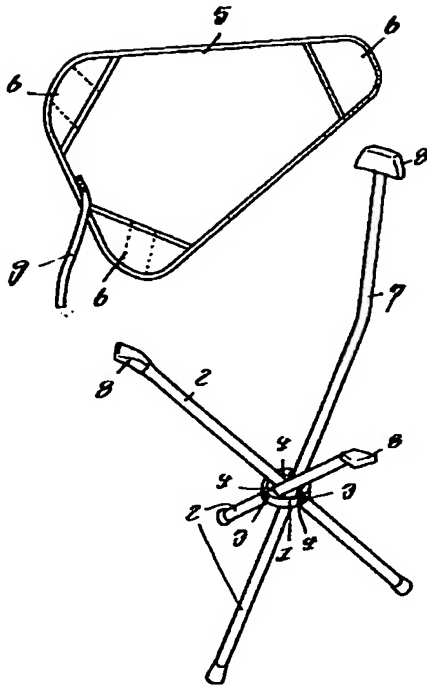
## 【符号の説明】

- 1 閉塞環体
- 2 脚棒体
- 3 枢着部
- 4 支承縁部

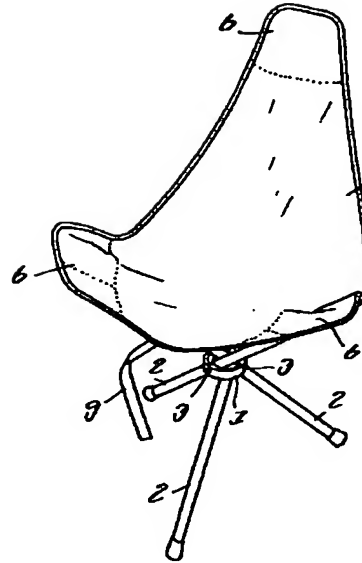
【図1】



【図2】



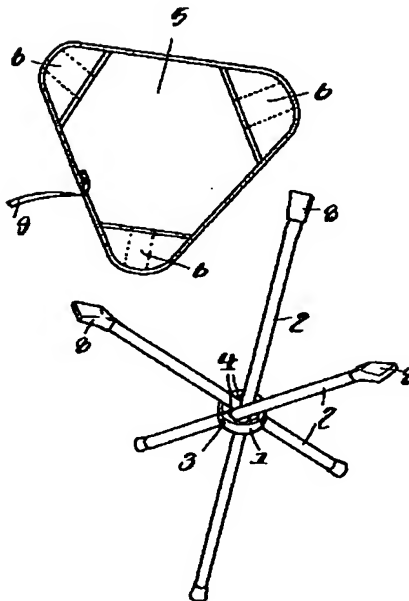
【図3】



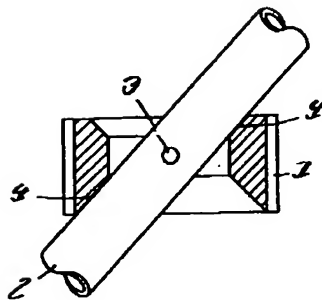
【図6】



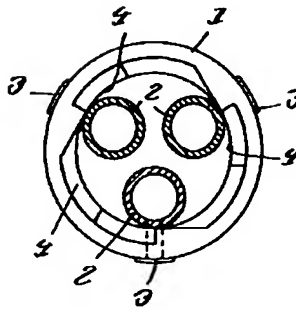
【図7】



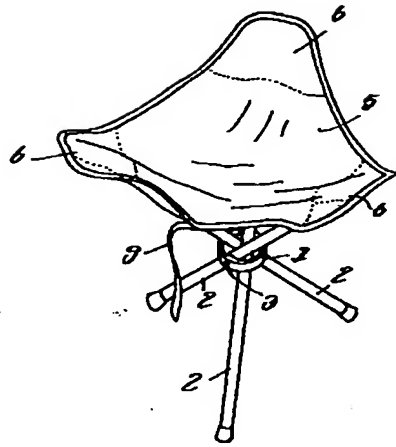
【図4】



【図5】



【図8】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**